

平成 21 年 5 月 11 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2009

課題番号：18530680

研究課題名（和文） ADHD 児の書字行動獲得を阻害する認知要因の行動的翻訳と個別式「e-支援」の関係

研究課題名（英文） Effects of individual e-learning to help the acquisition of writing behavior and behavioral translation to identify delaying factors of children with ADHD.

研究代表者

鶴巻 正子(TSURUMAKI MASAKO)

福島大学・人間発達文化学類・教授

研究者番号：40272091

研究分野：応用行動分析学，特別支援教育

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：書字行動の獲得、e-ラーニング、AD/HD

1. 研究計画の概要

注意欠陥/多動性障害（Attention Deficit/Hyperactivity Disorder，以下ADHD）のある子どものなかには，漢字の書字行動の獲得過程で，単調な繰り返しによる練習を拒否する場合がある。本研究は，このようなADHD児に対し個別式の「e-支援」を利用した教材や指導法を開発し，書字行動の獲得を阻害する要因の行動的翻訳の効果を明らかにすることを企図している。

2. 研究の進捗状況

研究代表者は，約5年間にわたるADHD児への書字支援をとおり，書字行動の獲得期に適切な指導を受けられなかった子どもが多いことに気づいた。ADHD児の障害特性や認知特性に応じた教材の開発が遅れていること，指導者不在や指導提供の場がないことがその主な理由である。このような問題の解決には，それぞれのADHD児に応じた教材を開発し，支援の期間や頻度のチャンスを広げることが必要である。本研究では従来の書取り練習とはまったく異なる教材や指導法の開発と実現を指向していた。具体的には，(1)ADHD児の書字行動の獲得における阻害要因（障害特性や認知特性）を行動的翻訳し，書字行動獲得のための教材を開発すること，(2)その教材を提供するための指導法として，ADHD児を対象とした個別式「e-支援」システムを開発すること，(3)「e-支援」の実践的研究から，教材開発に対する行動的翻訳の効果と妥当性を検証することであった。

個別式「e-支援」を実施するためには，対象となる児童生徒の書字行動の獲得状況

やつまずき原因を個人ごとに明らかとする必要がある。ADHDのある子どもは学年のほかに障害の状況や個人の学習歴も異なるので，これを具体化するために教育相談への参加者を募り調査を進めてきた。この教育相談は研究実施計画に基づき実験参加者及び家族の理解と同意を得るとともに，個人の情報やプライバシーが流失しないよう，資料の保存・管理はもちろん，実験に協力者として参加した大学院生にも事前指導・事後指導を十分に行き取り組んだ。これらの結果は雑誌論文，学会報告，図書作成などにおいて個人情報に十分留意しながら報告してきた。また，教育相談の実施を通して，ADHDのある児童生徒が困難を示しやすい課題を明らかにすることができたため，書字行動の獲得を阻害する認知要因の候補として指摘することができた。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

<理由>

漢字の書字指導や読字指導のためのソフトウェアを個別式「e-支援」システムで稼働させるまでになってきていること，個別式「e-支援」開発のために実験への協力依頼をしている小中学生の参加希望者が順調に増えていること，書字行動の獲得を阻害する要因の行動的翻訳が試みられそれを分析的に明らかにする準備まで進んできたこと，教育相談における実態調査の段階で得られた結果を国内外の学会，雑誌，図書等に発表することができていることを理由としてあげることができる。

4. 今後の研究の推進方策

(1) 実験への参加希望者の実態に応じた「e-支援」をさらに運営できるように開発を継続する。

(2) これまでの教育相談によるデータの集積により得られた結果と今後予定している教育相談の結果収集、文献研究、現職教員へのアンケート結果に基づきながら、書字行動の獲得を阻害する認知要因の行動的翻訳を分析的に試みる。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 4 件)

Tsurumaki, M. 2008 Self-esteem enhancement in children with attention deficit/ hyperactivity disorder. *Tohoku Psychologica Folia*, 66 105-111。査読有
鶴巻正子 2008 ADHDのある子どもへの漢字の書字指導 - コンピュータを用いた支援法の開発と個別式 e-ラーニングの可能性 - 生涯学習教育研究センター年報 第13巻 57 - 62。査読無

[学会発表](計 7 件)

鶴巻正子・仁平義明 否定的記述を含む測定が児童に及ぼす影響 日本特殊教育学会第46回大会「2008山陰大会」 2008年9月20日 鳥取県米子市

丹治敬之・鶴巻正子 ADHDのある中学生に対する英単語の読み綴り指導 - 見本合わせ手続きと構成見本合わせ手続きを導入した指導プログラム - 日本特殊教育学会第46回大会「2008山陰大会」 2008年9月20日 鳥取県米子市

Tsurumaki, M. Teaching Handwriting of Chinese Characters to Children with ADHD. Association for Behavior Analysis International, 33rd Annual ABA Convention, International Symposium. 2007年5月26日 米国・サンディエゴ市

Tsurumaki, M. Acquisition of Handwriting Behavior of Chinese Characters to a child with ADHD. Association for Behavior Analysis International, 32nd Annual ABA Convention, 2007年5月26日 米国・サンディエゴ市

[図書](計 1 件)

鶴巻正子 福村出版 8章 注意欠陥多動性障害者の心理 『ライフサイクルからよむ障害者の心理と支援』 2009年 112 - 122。